

# 特別支援学級 算数科学習指導案

対象児童 2年男子 R

指導者 ○○○○

## 1 単元名 かけ算（2） 九九をつくろう

### 2 単元について

#### (1) 児童について

2年児童Rは、1年生の時は、数の概念理解や計算が難しい状態であった。しかし、2年生になってからは、答えが20までの加減計算や10のまとまりを意識した計算に興味を持ち始め、繰り返し学習しながら、理解することができた。その後、1学期末までに、具体的な場面にに基づきながら、2位数の加減計算を覚えた。そして、2学期に入り、前単元では、新しい計算として乗法の学習に挑戦し、少しずつ「1つ分の数」「いくつ分」の意味を理解しながら、5、2、3、4の段の九九の構成を学習することができた。

#### (2) 教材について

本単元は、学習指導要領第2学年の内容「A数と計算」の(3)「乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。」を受けての内容であり、前単元に続いて6、7、8、9、1の段の九九を完成させるものである。これまで活用してきた性質（乗数が1増えると積は被乗数分増える）を理解させながら、交換法則、分配法則にも少し触れ、また、アレイ図等を児童Rに合うように活用しながら、児童R自らが九九を構成できるように取り組ませたい。その後、適用問題では、実際の生活に生かせるような練習問題を準備し、九九をより理解させるように努めたい。

本単元の指導にあたっては、まず、単元を通して、問題提示の工夫をしていく。児童Rが興味関心の高い具体物、半具体物を提示し、実際に操作させながら問題場面のイメージを持たせやすくし、確かな課題把握をさせる。次に、課題をどのように解決していけばよいかの「見通し」を大事に扱いたい。前単元で学習した乗法の性質やきまりを活用させ、概念形成がしやすいようにある程度パターン化した指導を繰り返しながら、児童自身が意欲的に九九を構成していけるように支援をしていく。理解習熟のための振り返りのさせ方については、振り返りの観点を、明確にする。九九をどのように構成してきたかを振り返らせ、児童自身が、学習して分かったことについて、自分の言葉で発表できるようにさせたい。

## 3 単元に関わる実態と目標

### (1) 単元の目標

◎乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

### (2) 個別の実態と目標

児童	単元にかかわる実態	単元の目標
2年R (知的)	<ul style="list-style-type: none"><li>・2学年の算数を個別に学習している。</li><li>・理解するのに時間がかかる。手指の巧緻性に課題がある。</li><li>・数の計算をするとき、指を使って計算するのを覚え始めた。</li><li>・数の計算をするとき、10のまとまりを意識できるようになった。</li><li>・2位数の加減計算で、筆算を使って答えを出せるようになった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・乗法九九の構成や計算の仕方を考えようとする。【関心・意欲・態度】</li><li>・乗法九九（6、7、8、9、1の段）を構成し、唱えることができる。【技能】</li></ul>

#### 4 単元の指導計画（18時間扱い）

小単元	時	学 習 活 動
①6の段の九九 7の段の九九	1 本時	・6の段の九九を構成をする。
	2	・6の段の九九を暗唱し、覚える。
	3	・6の段の九九の適用問題に取り組む。
	4	・7の段の九九を構成をする。
	5	・7の段の九九を暗唱し、覚える。
	6	・7の段の九九の適用問題に取り組む。
②8の段の九九 9の段の九九 1の段の九九	7	・8の段の九九を構成をする。
	8	・8の段の九九を暗唱し、覚える。
	9	・8の段の九九の適用問題に取り組む。
	10	・9の段の九九を構成をする。
	11	・9の段の九九を暗唱し、覚える。
	12	・9の段の九九の適用問題に取り組む。
	13	・1の段の九九を構成する。
	14	・1の段の九九を暗唱し、覚える。1の段の九九の適用問題に取り組む。
	15	・九九の習熟・定着を図る。
③ばいと かけ算	16	・倍を用いた問題に取り組む。
④九九の ひょうと きまり	17	・乗数と積の関係、乗法の交換法則について知る。
⑤まとめ もんだい	18	・日常生活の中で見られる九九を用いて計算できる問題に取り組む。 ・学習内容の習熟を図る。

#### 5 本時の指導

##### (1) 目標と評価

児童	個別目標	評価規準
2年R	・6の段の九九の構成の仕方が分かる。	・1つ分の数が、6であることが分かる。 ・乗数が1増えると、積は6増えることが分かる。

##### (2) 本時の支援の手立て

###### ① 確かな課題把握

**手立て1** 興味関心の高い教具を用いて、学習意欲を高める。

児童が意欲的に学習を進めることができるように、興味関心の高い半具体物（さら、いちご）を用いて問題把握をさせ、課題設定につなげたい。

###### ② 確かな理解につながる支援

**手立て2** 半具体物やアレイ図を提示し、思考を助ける。

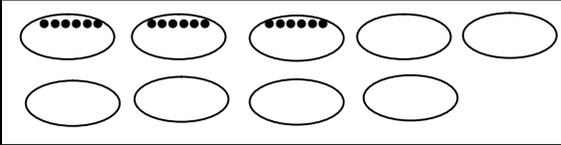
半具体物や板書の絵、アレイ図を切り離したものを見せながら、6の段の九九の構成であることを確認し、九九を構成するための足し算に取り組みさせる。自力で難しい場合は、教師と一緒に進める。

③ 理解習熟のための振り返り

**手立て3** 口頭による振り返り

本時の学習を振り返らせながら、分かったことを口頭で発表させる。

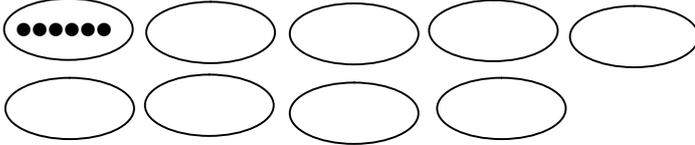
(3) 展開

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点 ◆評価 《評価方法》
つかむ 10分	<p>1 既習の振り返り</p> <p>2 本時の題意を捉える。</p>  <p>3 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6のだんの九九を、くふうしてつくりましょう。</p> </div> <p>○どのようにして6の段を作りますか。</p> <p>① 6ずつたす。 <b>【たす】</b></p> <p>② 前の答えに6をたす。 <b>【つけたす】</b></p> <p>③ かけられる数とかける数とをかえる。 <b>【とりかえる】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足し算カードで足し算の復習をさせる。</li> <li>・ 5, 2, 3, 4の段の九九を構成して覚えたことを振り返らせる。</li> </ul> <p><b>【手立て1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が好きないちごの模型を使って、本時の問題を把握させる。(さら, 模型のいちご)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いちごが1さらに6こずつ入っています。おさらは、なんまいかあります。いちごの数をしらべましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一皿の中に6個のいちごが入っていることから、既習の学習を想起させ、6の段の九九の構成の学習であることに気づかせる。</li> <li>・ ワークシートに「6のだん」を記入させ、「6のだん」を意識させる。</li> <li>・ 前単元でも使用した【たす】【つけたす】【とりかえる】のカードを提示し、課題解決の見通しを持たせる。</li> </ul>
ふかめ 25分	<p>4 自力解決をする。(一人学び)</p> <p>○ 6の段の九九を作らしましょう。</p> <p>6×5までの九九の答えを書きましょう。</p> <p><b>方法1</b> <math>6 \times 1 = 6</math>   <math>6 \times 2 = 6 + 6</math></p> <p><b>方法2</b> <math>6 \times 2 = 12</math>   <math>6 \times 3 = 12 + 6</math></p> <p><b>方法3</b> <math>6 \times 2 = 2 \times 6 = 12</math></p> <p>5 一緒に解決する。</p> <p>○どのようにして6の段を作ったのか発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初、自力解決の時間をとるが、難しい場合は、教師も手伝いながら足し算を進めさせる。</li> <li>・ たし算は、ワークシートに書かせる。</li> <li>・ たし算をするための筆算シートも用意しておく。</li> </ul> <p><b>【手立て2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレイ図を切り離れた図を見せながら、九九を作らせていく。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p><math>6 \times 1 = 6</math></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><math>6 \times 2 = 12</math></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><math>6 \times 3 = 18</math></p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自力でできないときは、無理をさせないで教師と一緒に九九を作る。</li> </ul>
ま	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6のだんの九九のつくりかた</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6ずつたす。 <b>【たす】</b></li> <li>・ 前のこたえに6をたす。 <b>【つけたす】</b></li> </ul>	

<p>と</p> <p>め</p> <p>る</p> <p>10分</p>	<p>・かけられる数とかける数ととりかえる。 【とりかえる】</p> <p>7 6×6～6×9の九九を構成する。 (時間があれば、練習問題に取り組む。)</p> <p>8 学習を振り返る。</p>	<p>・まとめをいかして6×6～6×9の九九を構成させる。 (時間があれば、PCを使った練習問題に取り組ませる。)</p> <p>【手立て3】</p> <p>◆今日の学習を振り返らせながら、分かったことを発表させる。</p> <p>6の段の九九の作り方で分かったこと</p> <p>《発表》</p>
---------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 板書計画

いちごの 数を しらべましょう。



6のだんの 九九を  
くふうして つくりましょう。

つくりかた

- ・ 6ずつたす。 たす
- ・ 前のこたえに6をたす。 つけたす
- ・ かけられる数とかける数ととりかえる。  
とりかえる

6のだんの九九

6×1=6	6+6	2×6
6×2=12	12+6	3×6
6×3=18	18+6	4×6
6×4=24	24+6	5×6
6×5=30	30+6	
6×6=36	36+6	
6×7=42	42+6	
6×8=48	48+6	
6×9=54	54+6	

②

- ・ 6ずつたす。
- ・ 前のこたえに, 6をたす。 6大きくなる。
- ・ とりかえる。